



沼澤道也 議員

令和7年1月1日が100周年記念日

沼澤道也議員 社会全体、金山も含め。大きな転換点になる100周年をどう考えているのか。私見だが、プレ記念として①山崎地区で実施している花植え等の全町拡大 ②庁舎内の絵展示、再配置(岸英三氏の絵も含む) ③町民ホール壁画の説明 ④小中学校のカムロスキー授業の実施の4点をやってみてはと思うが評価は。

町長 町制施行は大正14年1月1日で、令和7年1月1日が100

周年となる。町としても大きな節目の年と考えており、準備委員会等を立ち上げ内容、方向性などを検討していきたいと考えている。

議員の4つのプレ行事についても参考にしていきたい。①についてはフラワーコンクールで最優秀賞となっており、全町美化花いっぱい運動とも関連するものと考えている。②の絵についても展示していないものもあり検討してみたい。③は大石田町出身の日本画家石山稔画伯の作で「団結」「調和」「力」を表している、その紹介

プレ町制100周年記念への提言

回答 準備委員会を立ち上げ検討

プレートの取り付けは検討してみたい。④のスキー授業は教育長から答弁する。

教育長 過去に金山小学校で楽しさを知ってもらう意味で実施したことがある。町の100

0周年と金小150周年が同じ年度になるので、関連づけた事業ができないか校長先生とも検討していきたい。

これからの農業振興調査なくして計画なし

沼澤議員 これからの町農業振興について2つの要望をしたい。一つは町独自の農家調査の実施と認定農家との継続的話し合いの場を設けてほしいことである。最大の課題は担い手育成とそれを支援する体制の整備と思われる。

産業課長 調査については農林業センサスや人・農地プランのアンケート実施などを行っ

てきている。急激な農家構造の変化もあり、何かしらの実態調査が必要だという感じはしている。現在の人・農地プランが令和7年から法定化され、地域計画目標地図の素案の策定を行うことになっていく。また、認定農業者との話し合いも以前町長との懇談の場を設けたが、継続したものであるとして進めていく時期とも考えていて農業等関連機関とも協議していきたい。

沼澤議員 課題解決がそう簡単に出てくるものではないので、よく関係機関、農業者組織と話し合いをしてほしい。



町民ホール壁画(左から団結・調和・力)

農地の流動化促進策は

回答 ほ場整備事業の促進



中村忠行 議員

農地の借り手。買い手不足の懸念
中村忠行議員 5年度農業政策による賃貸借や売買のミスマッチの懸念と対策は。
柿崎喜一農業委員会会長 5年問題により畑地化が進めば、条件の悪い場所を中心に、出し手は増えても受け手がいない案件が増加していくことが懸念される。国は従来の畑地化時の一時金支援に上乘せる政策を打ち出し一層の畑地化を進める動きがあるが、町としては、新たな制度の周知を行いながら、農家自身が、畑地化を進め

るのか、それとも畦畔や水利を確保して5年に一度水張りができる農地として今後も転作の交付金をもらいながら米の作付けをしていくのかを判断するようにしていくことが求められる。
条件の良い農地を増やすことで生産性向上を図り、農地保全と農業所得の向上を目指すためには町単独のほ場整備事業の継続を望むとともに、国県の規模ほ場整備事業の推進も必要なことと捉えている。



回答する柿崎農業委員会会長

中村議員 遊休農地と
思われる農地が散見されるが、現状と基準は、
農業委員会会長 荒れた農地の解消に向けて鋭意努力しているが、手がかけられていない農地があるのも現実なので非常に難しい課題と捉えている。
遊休農地の基準は「1年以上耕作されて

中村議員 水田畑地化の増加が見込まれるが、町農業振興計画の見直しは。



農地パトロール

産業課長 「水田の畑地化」が一定数増加するものと捉えており、現在、パイプハウスなどによる園芸品目の栽培を行っている水田や、アスパラなど1度の植栽で複数年収穫できるような品目栽培を行っている水田については、来年度までに実施予定の特別加算措置の内容を周知し、農業者が少

しでも有利な状況で対応できるよう努めていきたい。
長期計画に関し「農業振興の継続」という考えは変わらないが、手法や経過については情勢が変わる期間でもあるので、明確に計画を定めることが必ずしもベストな選択ではないと感じている。